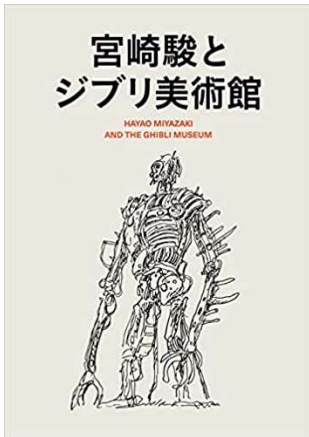


夏休みが終わり、朝夕は少しずつ涼しくなってきました。もう秋ですね。読書の季節がやってきました！

今回は、「**ジブリ特集**」です。誰でも1度はスタジオジブリの作品を見たことがあると思います。秋の夜長にジブリの世界に入り込んでみるのはどうでしょう。



『宮崎駿とジブリ美術館』 スタジオジブリ 編集

宮崎駿が描いたジブリ美術館のすべて。

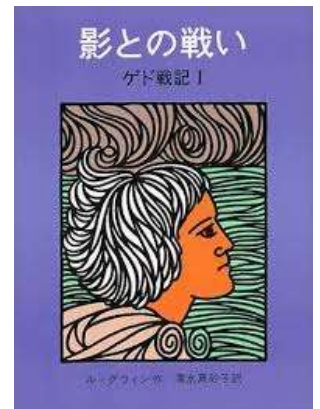
日本はもとより世界中の人々が1度は訪れてみたいと思う、ジブリ美術館。そこには宮崎駿監督のこんな美術館を作りたいという長年の思いが、数多くちりばめられている。宮崎駿監督が深くかかわっていた13のテーマの実現に向けての舞台裏を、膨大な絵とメモが明らかにしていく。

見どころは、ジブリの数多くのイメージボードやスケッチが描かれているところです。特に、スケッチに描かれたキャラクターの容姿がアニメと違っているものもあり、とても興味深いです。

『ゲド戦記 I』 影との戦い ルーグウィン作 清水真砂子訳

後に大賢人となるゲドの若かりし頃の話。『ゲド戦記』シリーズの第1作。アースシーのゴドン島に生まれたゲドは、自分に並はずれた力がそなわっているのを知り、真の魔法を学ぶためロークの学院に入る。進歩は早かった。しかし、得意になったゲドは、禁じられた魔法で、自らの影を呼び出してしまふ。

映画だけでは分からないゲドの生涯や、関わってきた人々が、描かれてるところが見どころです。世界観やストーリーなど、どれをとっても歴史に残るこの作品の前日譚・後日譚を知ると、映画もより楽しめると思います。



『宮崎アニメの暗号』 青井 汎

宮崎駿の代表的作品「風の谷のナウシカ」「となりのトトロ」…。これらは、古代の神話や、昔の生活様式などをもとにして作られた。中でも「千と千尋の神隠し」は多くの人を魅了し、その世界に引き込んでいった。この本では、そんな作品たちに隠された「暗号」を読み解いていく。

内容すべてが興味深いです。その中でも『もののけ姫』について、著者が宮崎駿作品の転換期だということを理由とともに述べている部分が面白いです。

いかがでしたでしょうか？ ジブリ映画を目を輝かせて見ていたあの頃を思い出したのではないのでしょうか。この機会にぜひ紹介した本を読んでみてください。きっと新しい発見ができるはずです。